

「現代的課題としての国際価値論の諸論点」

前畑報告は次の様に主張します。マルクス国際価値論はトランプ米国大統領が仕掛ける貿易戦争の必然性と世界革命の展望を与える世界市場のグランドセオリーである。これをリカード比較生産費説とレーニン帝国主義論の批判を通じて明らかにします。

これに対し、奥田報告は著書『現代の経済批判体系』で展開された議論の延長で、各国間の生産性格差がおこす価値論上の「修正」=国際的不等価交換を再生産表式として表現する挑戦的な研究であり、それを通じてアメリカの巨額の貿易赤字や日本の財政赤字が潜在的に有する経済上の危険な特質についても説明するものとなっています。

日程：2026年2月22日（日） 14：00 ～ 17：00

会場：駒澤大学世田谷キャンパス 3号館（種月館）301 教場

報告①前畑雪彦（所員・桜美林大学・名）

「リカード比較生産費説とレーニン帝国主義論—マルクス国際価値論に基づく批判—」

報告①へのコメント 堀内健一（所員・駒澤大学）

報告②奥田宏司（所員・立命館大学・名）「国際価値論と外国貿易を導入した再生産表式」

報告②へのコメント 秋山誠一（元國學院大学栃木短期大学教授）

司会 大西広（慶應義塾大学名誉教授）

・オンライン併用で、ZoomのURL等は以下の通り。

<https://hosei-ac.jp.zoom.us/j/8351615393?omn=89392922489>

~~ミーティング ID: 835-161-5393 (パスコードは不要)~~

以下に変更

<https://us06web.zoom.us/j/88622233348?pwd=N27EaKpQKacaernb0uCNc66p7a28aq.1>

ミーティング ID: 886 2223 3348

パスコード: 219869

主催：基礎研（基礎経済科学研究所）東京支部

前畑報告の参考文献

1. 前畑雪彦（2021年）「マルクス国際価値論の復権—「賃金の国民的相違」と世界市場の独自の機構—」『桜美林大学研究紀要社会科学部』第2号（2021年度）
2. 同（2022年）「国際価値と『労賃の国民的相違』」同上第3号（2022年度）
3. 経済理論学会第73回大会（2025年）第6分科会前畑雪彦報告「国際価値と『労賃の国民的相違』：リカード比較生産費説ならびにレーニン帝国主義論の批判」
大会ホームページからパスワードで閲覧できます。
4. 前畑雪彦（2026年）「リカード比較生産費説とレーニン帝国主義論—マルクス国際価

値論に基づく批判—」桜美林大学研究紀要・査読済み。東京支部のHPにアップされています。

奥田報告の参考文献

1. 奥田宏司（2024年）『現代の経済学批判体系』（日本経済評論社）
2. 同（2025年）「国際価値論と外国貿易を導入した再生産表式」『立命館国際研究』第38巻第2号